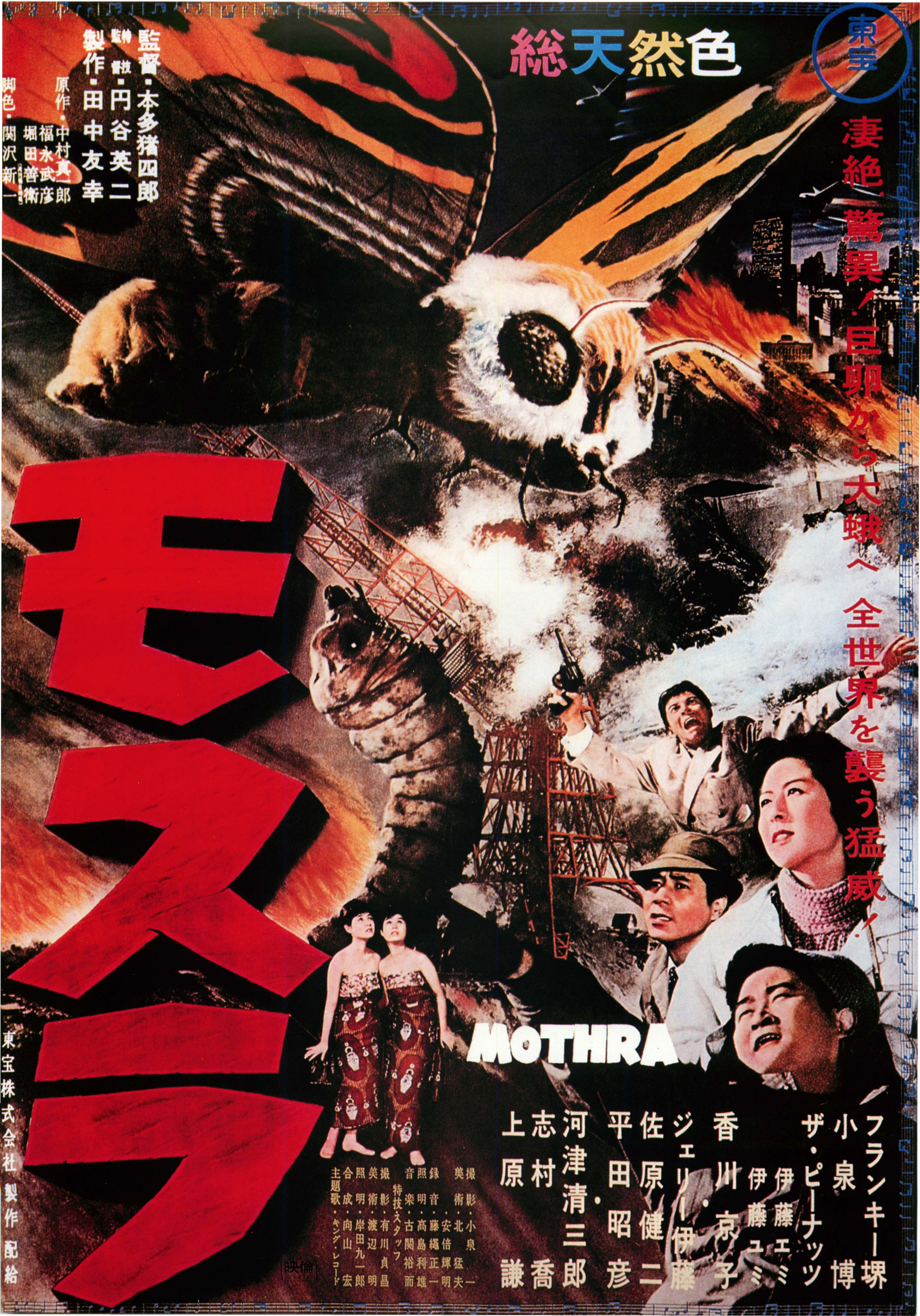


総天然色

凄絶・驚異！・巨卵から大蛾へ
全世界を襲う猛威！

モスラ

MOTHRA

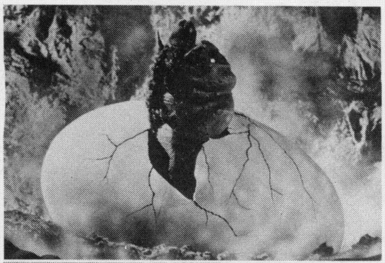
監督・本多猪四郎
特技監督・円谷英二
製作・田中友幸
原作・中村真一郎
福永武彦
堀田善衛
脚色・関沢新一

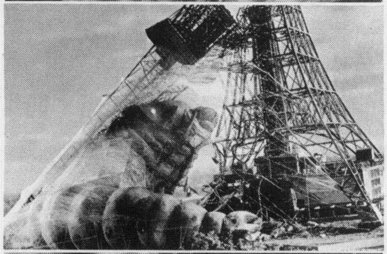
フランキー堺
小泉博
ザ・ピーナッツ
伊藤エミ
伊藤ユミ
香川京子
ジェリー・伊藤
佐原健二
平田昭彦
河津清三郎
志村喬
上原謙

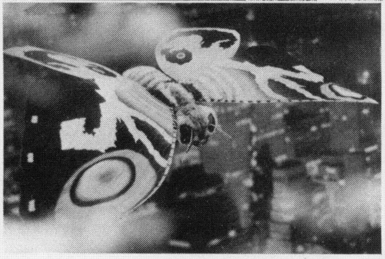
撮影・小泉一
美術・北猛夫
・安倍輝明
録音・藤縄正一
照明・高島利雄
音楽・古関裕而
特技スタッフ
撮影・有川貞昌
美術・渡辺明
照明・岸田九一郎
合成・向山宏
主題歌・キング・レコード

東宝株式会社・製作配給

モスラ







■ものがたり

日東新聞の記者福田善一郎は女カメラマン花村ミチといっしょに、核センターに原田博士をたずね、水爆実験海域の無人島、インファント島に原住民がすんでいて、彼らがのんでいる赤い汁は放射能をふせぎ、体力を取りもどす効果がある事を知った。

原田博士、中条信一らはインファント島調査に向った。原色のジャングルの中へ一人で入って行った中条は吸血植物におそわれたが身長30センチぐらいの小美人に助けられる。

小美人の歌うメロディに「島を荒さないでほしい」という意味をよみとった中条は「もう核爆発の実験はやりません」とやさしく伝えた。調査隊の事務係のネルソンは、この小美人を利用して一もうけをたくらみ、調査隊が帰国したあと、再びインファント島へ行き原住民から小美人をうばうと、東京で舞台にたたせた。

小美人の歌う妙なるメロディはテレパシーによって遠くインファント島に眠るモスラの卵につたえられた。そして原住民の儀式の最中に、全身白光色にきらめく巨大な幼虫が生まれ、小美人の歌声にひきつけられるように日本海の方へ消えていった。

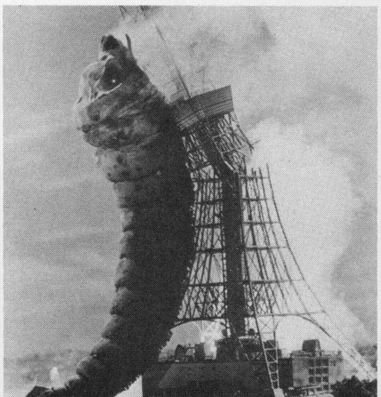
大怪獣モスラは、航海中の豪華客船をまっ二つに引きさき、波をけちらし東京めざして泳ぐ。日本政府はネルソンに小美人所有権の放棄をつげ、モスラの日本上陸をはばむ手段として小美人のテレパシーのしゃだんを原田博士にたのむ。エアゾールの集中攻げきや、ロケットの集中砲火の中を怒り狂ったモスラは小美人を求めて東京都心へ――

「モ……ス……ラ」

小さなインファント島の平和がこわされた悲しさに彼女たちの歌声はふるえていた。

大怪獣モスラは、東京タワーに近づくと、巨大な口から白い糸をはきはじめた。幼虫からサナギへの三段変化がはじまったのである。

政府はロリシカ軍の熱線放射隊の協力で、マユを形成したモスラに攻げきをかけた。



© Toho Co. 1961 大怪獣モスラ

すざまじい熱、まっ赤な炎、強烈な光とともに、すでに最終段階の変化を終ったマユはまっ二つに割れ、想像をこえた巨大な蛾があらわれた。するどい鳴き声を残し、小美人をつれもどすためロリシカの空をめざして飛び去って行った。

●モスラ

南太平洋のインファント島の守護神。巨大な卵から幼虫、さらに大蛾と驚異の三段変化して生れた空の大怪獣。

マッハ3の超音速で空中をとび、ひとたび羽ばたけば風速500メートルの大突風をまきおこし、鋭利な口ばしで強烈な頭突きをくらわす。羽から黄色い毒粉をふりまき散らす。

インファント島の身長30センチの双生児の小美人とテレパシーで話すことができ、平和を愛するやさしさを持ち、地球を狙う怪獣や島の原住民を苦しめる悪人たちとたたかう。

■スタッフ

製作……………田中　友幸
原作……………中村真一郎
〃………………福永　武彦
〃………………堀田　善衛
脚色……………関沢　新一
監督……………本多猪四郎
監影……………小泉　一
音楽……………古関　裕而
特技監督………円谷　英二

■キャスト

福田善一郎……………フランキー堺
中村信一………………小泉　博
花村ミチ………………香川　京子
小美人…………………ザ・ピーナッツ
原田博士………………上原　謙
クラーク・ネルソン……ジェリー・伊藤
天野貞勝………………志村　喬
ヘリコプター操縦士……佐原　健二
国立核総合センター院長……平田　昭彦

（昭和三十六年七月　封切）